

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100195		
法人名	(有)暮らしの里		
事業所名	グループホーム暮らしの里さくら苑		
所在地	千葉市中央区都町6丁目9番7号		
自己評価作成日	令和2年2月25日	評価結果市町村受理日	令和2年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和2年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温かみのあるもう一つの我が家を理念としています。  
 利用者の皆様が、笑顔で自分らしく生活できるようにしています。  
 職員は利用者の皆様との関わるを大切にしながら、信頼関係を築くようにしています。  
 ル容赦様のレベルや個性を重んじながら、出来る物事に参加して頂くようにしています。  
 ご家族の皆様にも気軽に声を掛けて頂くように心がけています。  
 ご家族の皆様には第二の実家のように、いつでも気軽に足を運んで頂けるように心がけています。  
 職員は、常に相手の立場になりながら、尊敬と思いやりをもって接するようにしています。  
 職員はル容赦様に寄り添って、安心した生活を送れるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員は理念や運営方針に沿って、利用者本位の支援ができるように取り組んでいる。  
 家庭的な環境の中で、利用者一人ひとりがその人らしく生活できるように、本人の意向や要望を大切に、利用者ができることは適切に支援し、役割とやりがいをもって生活できるように心がけている。また、家族との関係、地域との関係も大切にして、利用者の日々の生活が豊かなものになるよう努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の認知症状、性格や生活歴を共有しながら、理念にある「温かみのあるもう一つの我が家」を心がけ、本人本位に生活して頂けるよう努めています。	管理者は、職員の日常の行動や支援を見て理念等が周知できているか見極め、利用者本位の支援の実践につなげている。	職員個別の人材育成を目的とした取り組みとして、理念や運営方針と照らし合わせた自己評価なども期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お天気の日には近隣をお散歩し、挨拶を交わすことにより、ホームがある事、ご入居者様を理解して頂くよう努めています	地域の中で利用者一人ひとりがその人らしく生活できるように、日常の散歩や買い物等に加え、地域行事などに参加し、地域交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方に対し、行事への参加をお伝えしたり、見学や質問の対応を行うよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での基本情報をもとに、定期的開催、報告、質疑応答等での意見交換を行うことにより、サービス向上につながるよう努めています。	運営推進会議を定期的に開催し、地域にホームの状況や認知症等についての情報発信をしている。また、防災等の地域連携についても確認を取り、ホーム及び地域の安全と安心について話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	届出等についても、協力体制築き、事前確認相談しやすい状態で対応して頂けるよう努めています。	市町村担当者とは協力体制を築き、困難事例や利用者及び家族の意向や要望に合わせた取り組みについて、必要に応じて連絡を取るなど連携して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の研修では、身体拘束について、職員が研修資料作成、発表提出定することにより、身体拘束禁止を周知しています。	身体拘束・虐待については、毎月の研修や日常の取り組みの中で適宜確認して、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の研修では、虐待について、職員が研修資料作成、発表提出定すること、虐待を見逃さない、報告と義務について説明、外部連絡先を全員に周知しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談を受けたり、必要性があると思われる場合は、成年後見制度があることをお伝えし、希望がある場合は、活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の電話相談、見学時の質疑応答を行っています。契約書類で、更に説明を行うようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族が気軽に声をかけやすい環境づくりをしています。意見、相談なども運営推進会議を活用し、意見を頂き、改善するよう努めています。	利用者及び家族の意見や意向を大切にしてい、組織運営に反映している。家族の来訪時や電話でのコミュニケーション、運営推進会議を通じた意見交換、手紙等の文書による意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の意見を大切にしています。職員の意見を重視しながら、業務に反映するよう努めています。	日常の意思疎通や組織運営の仕組みの中で、職員の意見が反映できるようにしている。管理者は日頃から意見が言いやすい雰囲気をつくるように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績、勤務状況、態度を把握し、給与に反映するようにしています。仕事に意欲とやりがいを持てる環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個性や能力を理解し、外部研修出来るように努めます。内部研修は課題に対して全員が交代で、資料作成することに学びの場を広げるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日常勤務に追われ、時間確保が難しい。他施設からの訪問があった場合は、情報交換を行い、サービスの向上につながるよう努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来るだけ多く情報収集し、入居時には、職員が情報を共有している事で、出来る限り不穏にならないような対応が出来るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族が困っている事をお伺いするとともに、ご要望を傾聴しながら、関係作りと協力体制を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の関係、本人の性格や習慣を理解し、早めに必要な支援を見出しすように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人本位であることを考慮しながら、介護・介助拒否が見られても強制せず、タイミングを大切にしながら勤務に当たるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にとって「第二の実家」の理念にあるように、ご家族にとって常に開かれたホーム作りをしながら、出来る限り多くの入居者とご家族が良い時間を過ごせるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問する可能性のある親類、知人、友人は事前に教えて頂くことで、来苑時の対応がスムーズに行えるよう努めています。	職員は利用者の馴染みの関係や大切な場所などについて把握に努め、会話の中で触れるようにしている。また、職員間で共有して、個別の支援に活かすようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が、毎日ともに過ごすことで、次第に不穏なく生活でき、利用者同士の相性も考え、良い関係が保てるような支援に努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、ご家族からの相談があれば、出来る範囲でご協力、支援するよう努めています。また、退去後も継続して、ご支援、ご協力して下さいご家族もいます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位の支援のために、入居前の収集した情報をもとに、どのような症状が予測されるかを検討するとともに、実際の本人の状態を把握し、強制せず、生活出来るように努めています。	入居前の情報で意向を把握しており、入居後は日々の会話の中などから聞き取るようにして、利用者本位の生活の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を活用し、これまでの暮らし方、生活歴、環境、サービス等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症前の生活状態、認知症になってからの状態、出来る事、出来ない事を把握し、入居後も出来ることを継続できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員はケアプランに参加し、モニタリングでの結果や気づきの報告を行い、次のケアプランに反映させるよう努めています。	全職員が一人ひとりの利用者の思いや希望などをモニタリング表を用いて毎月記録し、介護計画に反映している。介護計画の見直しは3か月に1回おこなっているが、心身状況に変化があった場合は、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録が基本となり、本人の状態把握が出来ようになっています。連絡ノートに意見も記入できるようにし、職員全員が共有活用、介護計画の見直しにも活用できるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人一人の認知症状、家族関係を把握しながら、柔軟性を持ち、その時々あった対応をしていくように努めます。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩を通じて、近隣の方との関係性を築き、利用者、職員、そしてホームを知って頂き、地域に馴染み、安全な生活が出来るように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者は、ご家族の希望により、ホーム提携医療機関の医師がかかりつけ医になっています、専門医の診療が必要な場合は、ご家族対応により通院して頂いています。	ホームの協力医をかかりつけ医とし、往診による健康管理をおこなっている。受診結果や薬に関する情報は職員間で共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ターミナルケア対応がない為、現在、訪問看護体制はありません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常時、医療行為がない場合は、病状により難しい時もありますが、認知症である場合、病院と相談しながら、早期退院し、早く入院前の状態に戻れるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを行っていないことの説明を、入居前に説明しています。本人の状態を見ながら、ご家族との話し合いを設け対応しています。	契約時に、「重度化・終末期について」記載した指針により、本人及び家族に詳しく説明をしている。状態の変化が見られた場合は、医療関係者、家族、ホームで話し合い、その後の対応を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の通報対応、連絡、報告が行える体制を作り、誤嚥、止血対応の研修も行うように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定められている年2回の消防避難訓練は行っています。自然災害に対する避難訓練を行うように努めていきます。	消防署の立ち合いを含め、年2回避難訓練を実施している。夜間想定訓練、自然災害想定訓練など、マニュアルに沿って利用者と職員でおこなっている。非常時の設備機器についても、年1回の定期点検時に訓練をしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格、プライドを把握し、本人を尊重しながら、プライバシー保護に努めています。	職員自身が嫌な事はしないし、言わないという事を職員間で共有するように努めている。不適切な対応が見られた場合は、その場で注意し合えるような関係性を構築している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に合わせて、傾聴を大切にしながら、会話の中から、思いや希望を引き出し、自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で、全てご本人のペースに合わせることは難しいですが、一人一人のペースを知り、出来る限り、ご本人のペースに合わせて過ごせるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のお化粧、髪のカット、衣装など、少しの変化に気づき、喜びや意欲を持って頂けるように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来ることを把握し、その方に合ったものに参加して頂くように努めています。	普段の昼食と夕食は業者委託となっているが、毎週水曜日及び朝食については、利用者のリクエストも聞きながら職員が調理をしている。利用者もテーブル拭きなどできる事で参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の食欲、水分摂取の状況を見て、必要な人については、食事量、水分摂取量等を記録し、健康管理を行うように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行うとともに、必要な方は、定期的な訪問歯科活用を行うよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを把握していき、トイレ誘導をするようにし、出来るだけ、トイレの利用を促すよう努めています。	日々の生活の中で、利用者の排泄リズムの把握に努め、トイレに誘導したり見守りをして、排泄の自立を支援している。夜間は、ポータブルトイレやリハビリパンツなどを適切に使用して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬での便秘解消しなければいけない方も多くいますが、毎日の体操、お散歩、室内歩行、水分摂取の促しに努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回、基本的に決められた時間に入浴して頂いています。	利用者の様子を見ながら入浴誘導支援している。入浴をしたくないという利用者には、言葉かけなどを工夫しながら促すようにしている。また、菖蒲湯やゆず湯など季節の行事は大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態によりませんが、日々、リズム正しく生活して頂くことで、安眠につながるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を職員全員が確認できるようになっています。変更、開始、中止は二つの記録ノートで確認できるようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の声を傾聴し、強制はせず、好きなことに参加して頂くようにしています。興味を持ってそうなものに参加して頂き、笑顔を引き出せるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人一人の希望に沿った外出は困難ですが、ご家族の協力の下で外出、外泊が可能な方もいます。地域ボランティアは制限がある為、職員が出来るだけ多く、散歩に出るよう努めています。	天気の良い時は近隣周辺に散歩に出ている。また、月2回、計画を立ててお花見や外食などの外出をしている。家族と一緒に外食に出かけたり家に帰る人もいる。	

【評価機関】



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方にとって、金銭はトラブルになることが多い為、金銭所持の支援は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	原則、携帯電話の持ち込みは禁止していません。ご家族からの電話は取り次いだり、被用者によってはお手紙を書いて頂いたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは窓が多く開放的で過ごしやすくなっています。季節を感じるような、利用者手作りの物が飾られたり、利用者の希望で、音楽、テレビがかけられ、生活感があふれるよう努めています。	リビングは自然光が入り、明るい。空気清浄器や加湿器などを設置し、快適な室内環境をつくるようにしている。また、利用者がつくった作品で季節感を出すようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決められた時間外は、自由に一人一人好きな場所で過ごして頂くよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症状にもよりますが、居室は利用者にとって居心地の良い場所になるように、出来るだけ、自宅で馴染んでいる物をもって来て頂くようにしています。	居室にはタンスや家族の写真、鏡など使い慣れた物が持ち込まれており、一人ひとりが自分らしく過ごせるような部屋になるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の現在の認知症状、ADLを把握し、現状のレベルに合った、理解し、プライドやプライバシーを守りながら、出来ることを行って頂く等に努めています。		